

神戸大学国際文化学研究科 日本語教師養成サブコース

2025 年 6 月 10 日

神戸大学大学院国際文化学研究科「日本語教師養成サブコース」自己点検報告書

1. はじめに

登録日本語教員養成機関ならびに登録実践研修機関として、カリキュラム及び教育体制の不断の点検と改善を行うため、サブコース内規第 14 条に基づき、自己点検報告を行う。

2. 自己点検の時期と期間

サブコース内規第 14 条では、年度末の自己点検評価を義務付けているところであるが、登録機関として学生を受け入れたのが 2025 年 4 月であるため、今回は、2025 年 5 月～6 月にアンケートを実施し、自己点検評価を実施した。

3. アンケートの対象者

- ・受講生（2024 年度入学の現在 M2 生+2025 年度入学の現在 M1 生。※）2024 年度入学生は登録以前の旧カリ学生）
- ・科目提供教員（2024 年度以前の旧カリにおける科目提供教員+2025 年度以降の新カリにおける科目提供教員）
- ・コース履修学生指導教員（上記との重複者を含む）

※いずれも回答は任意。回答は記名式。

4. アンケート結果の要約

4.1 受講生対象アンケート結果

回答者数 M1:5 名、M2:5 名、合計 9 名

属性	M1 平均 (/5)	M2 平均 (/5)	全体平均 (/5)	全体 SD
Q1 これまでのサブコースでの学びに どの程度満足していますか？ (1:満足していない-----5:満足して いる)	4.2	4.25	4.22	0.97
Q2 サブコース履修により、日本語や	4.2	4.5	4.33	1

日本語教育を取り巻く状況への理解度は高まりましたか？ (1:高まっていない----5:高まっている)				
Q3 サブコース履修は自身の専門分野の研究や学修に良い影響を与えていますか？ (1:与えていない----5:与えている)	4.2	4	4.11	1.05
Q4 サブコース履修は大学院での自身の学修にとって負担になっていますか？ (1:負担になっていない----5: 負担になっている)	3.6	3.5	3.56	1.13
Q5 昼食時の情報交換会などのイベントは有益でしたか？ (1:有益でなかった／参加していない----5:有益であった)	4.6	3	3.89	1.69
Q6 大学院修了後、何らかの形で日本語教育に関わりたいというお気持ちはありますか？ (1:現状ではない---5:現状ではある)	3.6	4.75	4.11	1.36

Q7 これまでのサブコース履修でよかったと思うことがあれば記入してください(回答任意)

- ・専門と異なる授業が必修になっているので、様々な視点や知識を学ぶことができる点
- ・日本語教育や日本語そのものに対する理解度が上がりました
- ・日本語教育に関する知識を増やしており、日本語研究への関心や意識を高めるようになりました。また、授業を通して多角的な視点から日本語を捉えることができ、自分の興味・関心の方向性がよりはっきりしてきたと感じています。さらに、他の受講生との意見交換を通じて、自分とは異なる視点に触れ、考えを深めるきっかけにもなりました。
- ・授業やイベントなどを通じていろいろ勉強になりました。

Q8【回答任意】これまでのサブコース履修で不満点や改善要望があれば記入してください

- ・上記のメリットがあるとはいえ、自分の研究に関する授業もある程度取れたらいいなと思います。
- ・日本語学校との連携で、就職会とかあったらもっと仕事見つけやすいかと思います。

4.2 授業提供教員対象アンケート結果

回答者数 N=12

項目	平均 (/5)	SD
Q1 サブコースへの科目提供について総合的に判断して満足しておられますでしょうか？ (1:満足していない----5:満足している)	3.92	0.67
Q2 サブコースへの科目提供により日本語教育に関心のある学生の受講が増えたことは、先生の授業にプラスの影響を与えていますでしょうか？ (1:与えていない----5:与えている)	3.33	1.3
Q3 サブコース運営委員会で作成した教員制度の解説ビデオ(2025年度科目提供者向け)などをご参考になりましたでしょうか？ (1:見ていない／参考になっていない---5:参考になっている) ※旧カリ科目提供教員にはビデオは提供していない	3.5	1.62

Q4 【回答任意】現行のサブコース制度へのご意見、改善へのご提案があればお聞かせください

・特にありません

・さらによくするために、海外留学・交流との連携を考えてはいかがでしょうか

4.3 指導教員対象アンケート結果

回答者数 N=15(※上記との重複回答者を含む)

回答	平均	SD
Q1 サブコースの履修は先生の指導学生の研究に何らかの形で役立っているとお感じでしょうか？ (1:役立っていない----5:役立っている)	3.6	0.99
Q2 今後、ご指導の学生がサブコースの履修を希望された場合、推奨されますでしょうか？ (1:推奨しない----5:推奨したい)	3.93	1.16

Q3 【回答任意】現在のサブコースの制度、またその改善について、ご意見があればお聞かせください

・ご尽力ありがとうございます。制度としては修了生輩出後でなくては分からない面もありますが、様々な専攻の学生がサブコースをきっかけに履修している様子が見られ、ポジティブな影響もあると感じています。履修の必要な科目の多さと研究時間の両立がどの程度大変かは注視したいで

す。

・4月に入学したM1学生がサブコースを履修していますが、現時点ではその効果等について判断できる材料に乏しく、評価等については差し控えさせていただければ幸いです。

・ご苦勞が多いと思います。常に試行錯誤の連続でしょうが、今後日本や日本社会に貢献してくれる外国人の方々にとってますます重要性の増す分野です。よろしくお願いします。

5. サブコース運営委員による分析・自己評価

委員	分析・自己評価
石川	(1) まず、学生アンケートにおいてはおおむね良好な結果が得られたと判断する。とくに昼食を兼ねた学生交流会については入学直後のM1学生による評価は非常に高く、こうしたイベントを継続実施していくことが重要と推察される。また、日本語関連職への就職関心がM2のほうが高くなっていることは、日本語学校参観プログラムなども含めたサブコース教育の成果と推察される。日本語学校との連携による本学学生専用の就職説明会の開催なども考えたい。 (2) 科目提供教員アンケートにおいては科目提供に対する満足度は4ポイント近くで、おおむね良好であった。なお、旧課程(登録前)においては科目数が多かったため、科目提供がサブコース学生の履修とつながらないケースも多く、全体の回答平均値は低くなっている。解説ビデオの評価は3.5であるが、標準偏差が高いことにも示されるように、見ていない(1点)を除くとすべて4点ないし5点にまとまっており、こうしたビデオの継続的作成も課題になるだろう。登録機関の面接審査で指摘を受けた「科目提供教員に対する情報や研修機会の提供」を念頭に試みを続けていく必要がある。 (3) 指導教員アンケートにおいては、学生のサブコース履修についておよそ肯定的な反応が得られ、さらに今後の学生の受講についても積極的に推奨したいという反応が得られた。こうした教員の理解によってサブコースが支えられていることを念頭に置きつつ、たとえば適宜学びの実情を指導教員にも報告するなど、指導教員を巻き込む運営を考えていく必要もあるだろう。 (4) 最後に全体の総括として、これまで以上に学生や指導教員、科目提供教員との連携を重視していくことがサブコースの指導の意義を高める方策であると考え。この方向をどう具現化していくか、サブコース運営委員会においてもさらに検討を深めていきたい。
川上	(1) 学生へのアンケート結果からは、肯定的な評価となったことはコース設計や運営が一定程度評価されているものであると言えるが、今後は回答者数を増やし、さらなる検証が必要である。一方では、学生自身の研究とサブコース履修の負担については、日ごろから意識はしているところではあるが、やはり研究への時間確保が難しい様子も見られたため、バランスを取りながら運営していく必要性も感じられる。今年度は定期的に修了学生の体験を聞く機会を設けるため、進路や就職につなげたいという希望にはある程

	度応えられると期待する。 (2) 授業科目提供アンケート結果からは、ビデオでの FD は一定の成果があると評価できる。より詳細にコースの理解を深める機会また一方では授業科目提供者からコースへのフィードバックを受ける機会として、意見交換会などを設けることなども必要かと思われる。 (3) 指導教員へのアンケート結果から：修了生が出ていない段階でまだ評価をすることができないという意見がいくつか見られる。今後継続して本アンケートをしていくことで、きちんとした評価ができると考えられる。
齊藤	学生へのアンケート結果については、おおむね好意的な評価を得られているものの、履修登録者数に対し回答者数が少ないため、この結果で安心せず、通常の授業等で履修生のニーズや課題を把握するよう努めたい。アンケートの実施方法については、回収率があげられるよう、次年度以降改善を試みたい。自由回答の記述からは、履修生の学びの深化につながっていることがうかがえる。キャリア形成への橋渡しについては今後の課題である。 授業提供教員へのアンケート結果は、3 点台が中心となっていることから、科目提供への否定的な評価はないようであるものの、通常の授業の中ではあまり自らの授業と本サブコースとの関わりを意識していないことが多いのではと察せられる。担当教員に対する FD などを通じて、サブコースへの科目提供が提供者側の授業運営にも好影響を与えられるようにできないか、検討したい。 指導教員へのアンケート回答については、専門分野、指導学生の年次の違い等の複数の要因によってばらつきがあると考えられ、平均値をもって議論するのは控えたいが、サブコース履修により、言語系の専門であればより深い分析や考察が可能になる、非言語系であれば多角的な視点をもてるようになる、といったことにつながるよう指導の充実に努めたい。
林	・サブコース設立 10 年を迎え、単位の取り残し、申請書の出し忘れ等、教務上のミスが起こらないように、書式や説明会などを改良、実施し、学位授与式等で修了証書を渡すなど、研究科へのアピールも繰り返してきたことが、サブコースへの高評価ともつながっていると思う。 ・大きな問題点となっていた、横のつながりに関してはコロナ禍を経て、ランチミーティング等で履修学生同士のネットワーク作りを促進したことで、解決されつつあると思われる。 ・今後はニュースレター等を通して、学生や教員への活動報告の場を拡げる努力をするとともに、日本語教師資格が大きく変わっていく中、的確な情報を提供したり、ロールモデルを提示したりといった、修了後の具体的なイメージをもてるようにすることが重要であると考えられる。